

# 2019 年度（第 43 回）支部総会報告

幹事長 本澤 壽郎（昭 49 院子）

2019 年 6 月 16 日（日）12 時 40 分より三の丸ホテル（水戸市）において、第 43 回支部総会が 40 名の参加者により開催されました。ご来賓に杉田龍二多賀工業会会長、綿引貞男千葉県支部長、高橋伸二埼玉支部長、小林一東京支部長、川浪英靖鹿行支部長、小幡勲いわき幹事長、磯崎公郎日立総合支部長の各氏をお迎えしました。また、今回は理事会・本部総会を順次開催する中での時間に追われる会となりました。

**【議事】** 物故者への黙禱の後、来賓紹介、加藤清支部長・杉田多賀工業会会長の挨拶を経て議事に入りました。上程された①2019 年度事業報告 ②収支決算報告 ③2019 年度事業計画 ④収支予算 ⑤会則改訂⑥役員改選の 6 議案は全て原案通り満場一致で承認されました。

**【特別講演】** 茨城大学名誉教授、日立市郷土博物館特別専門員、理学博士、田切美智雄先生に「日本列島の形成史と茨城県の地質」と題し身近な郷土とはるかな太古の時代の関連をご講演頂きました。

講演概要は右記の通りです。

**【懇親会】** 出席者全員で恒例の記念撮影を行い、懇親会に進みました。今回は本部総会における懇親会との位置付けになりました。急遽出演をお願いした弦楽合奏団コスモスの演奏で理事会・総会での緊張をほぐした後、最年長の江連会員の乾杯を経て宴に入り、和気あいあい懇談し、会は大いに盛り上がりました。

最後に、全員で校歌を斉唱し、岡野顧問による中締めがあり、盛会裏に総会を締めくくることができました。



理学博士 田切 美智雄 先生

## 特別講演（概要） 「日本列島の形成史と茨城県の地質」

### 【日本列島の形成史】

日本列島を形成している地質は従来オルドビス紀（4 億 8500 万年前）のものが最古とされてきたが、ウラン 238 の非常に長い半減期を活用した岩石の年代分析法により、それを大きく遡るカンブリア紀（5 億年以上前）の地層を発見することができた。そしてこの地層が日立市と常陸太田市にまたがる多賀山地に広く分布していることが分かった。

中国やロシアの東端にも同年代の地層が発見されていることから、日本列島は中国大陸の縁でカンブリア紀層が堆積して形成され始めたと考えられる。

### 【茨城県の地質】

多賀山地の地層を調査すると下層から上層にかけて下表に示すような構成を見ることができる。

（位置は多賀山地全体から見た方位で示す）

地層名	位置	年代
西堂平	南西部	カンブリア紀（5 億 100 万年前）
玉簾	西部	カンブリア紀（5 億 700 万年年前）
赤沢	中央部	カンブリア紀（5 億 5～700 万年年前）
大雄院	東部	石炭紀（3 億 6000 万年前）
大甕	南端	石炭紀（3 億 6000 万年前）
鮎川	東部	ペルム紀（2 億 3000 万年前）

以上の地層調査などから、日本列島の中で多賀山地が最初に形成された地域であることが分かる。

まとめると

- ① カンブリア紀に中国大陸の縁に日本列島最初の地層が誕生
- ② 石炭紀には多賀山地は陸地であった
- ③ 日本海が生じた時、久慈山地は海底にあり、八溝や阿武隈山地は陸地であった
- ④ 新生代に阿武隈山地と八溝山地は大きく隆起
- ⑤ 約 500 万年前から八溝山地と阿武隈山地が衝突して久慈山地が作られた
- ⑥ 約 5 万年前まで山地以外は海底にあり、その後隆起して陸地となった

馴染みの薄い太古の出来事を馴染み深い地名を織り交ぜて簡明にご講演下さった先生に深く感謝申し上げます。

## 第43回水戸勝田支部総会 写真集



総会参加者（前列中央：三村茨城大学学長、右隣：増澤同工学部長）



総会風景



懇親会風景



弦楽合奏団コスモスの演奏風景



懇親会風景（全員で校歌斉唱）